

東洋製罐グループ CSRレポート2016



発行・連絡先 東洋製罐グループホールディングス株式会社 CSR室
〒141-8627 東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング
Tel. 03-4514-2303

東洋製罐グループのCSRに関するご意見・ご感想をお聞かせください。

● CSRレポートアンケート <http://www.tskg-hd.com/csr/enquete/>



ひらき、心ときめく

東洋製罐グループは、事業活動を通して社会課題の解決に貢献する。

グループ全従業員は、日々の業務が社会への責任を担っていると認識し、活動する。

これが、東洋製罐グループが目指すCSR経営です。

「包みのテクノロジー」をベースに、「ひらき、心ときめく」価値を創造し、

持続可能な社会の実現に貢献する企業を目指します。



目次

編集方針・基本報告.....	2
目次.....	3
会社概要.....	4
あなたの周りに東洋製罐グループ.....	6
トップインタビュー.....	8
これまでの100年とこれからの100年を大切に、 東洋製罐グループは、新たな成長の基盤を 築いてまいります。	
第四次中期経営計画.....	11
東洋製罐グループのCSR経営.....	12
ステークホルダーとのかかわり	
お客さまとのかかわり.....	14
お取引先とのかかわり.....	17
株主・投資家とのかかわり.....	18
従業員とのかかわり.....	19
地域社会とのかかわり.....	21
地球環境とのかかわり.....	23
マネジメント	
コーポレート・ガバナンス.....	27
コンプライアンス.....	28
リスクマネジメント.....	29
東洋製罐グループ関係会社.....	30

編集方針

東洋製罐グループでは、持株会社体制のもとに、CSR経営をベースとしたグループ経営を推進しています。

本レポートは、ステークホルダーの皆さまへ東洋製罐グループのCSRに対する考え方や活動を、わかりやすくお伝えすることを目指して作成しました。

東洋製罐グループは、ステークホルダーの皆さまとの誠実な対話とそこから始める行動をCSRの基本姿勢としています。

皆さまからのご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

また、本冊子に掲載されていない情報については、Webサイトをご覧ください。

<http://www.tskg-hd.com/csr/>

基本報告

報告書の対象範囲

東洋製罐グループホールディングスを含む
国内・海外グループ会社

対象期間

2015年4月1日～2016年7月31日

数値データ

2015年4月1日～2016年3月31日

発行

2016年9月（次回2017年9月発行予定）

参考にしたガイドライン

ISO26000（社会的責任に関する手引）

各事業会社の詳しい活動については、下記をご覧ください。

東洋製罐株式会社：サステナビリティレポート

東洋鋼板株式会社：CSR（HP内）

東洋ガラス株式会社：環境・社会報告書

東罐興業株式会社：環境・社会報告書

日本クロージャー株式会社：環境・社会報告書

東罐マテリアル・テクノロジー株式会社：環境・社会報告書

東洋エアゾール工業株式会社：環境について（HP内）

会社概要

東洋製罐グループホールディングス株式会社

創 立 1917年(大正6年)6月25日
 代 表 者 代表取締役社長 中井 隆夫
 資 本 金 110億9,460万円
 本 社 〒141-8627 東京都品川区東五反田2丁目18番1号 大崎フォレストビルディング
 従業員数 391名(連結18,884名) 2016年3月31日現在

事業紹介

包装容器関連事業



缶詰用空缶やプラスチック製容器をはじめ、キャップ・ガラスびん・紙製容器・エアゾール製品など、日常生活を支える各種包装容器の製造販売を中心に事業を展開しています。

鋼板関連事業



缶用材料をはじめ、電気・電子部品用材料、自動車・産業機械部品用材料、建築・家電用材料など、暮らしのあらゆる場面で活躍する各種鋼板材料の製造販売を中心に事業を展開しています。

機能材料関連事業



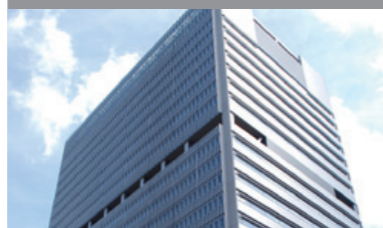
磁気ディスク用アルミ基板・光学用機能フィルム・塗薬・微量元素肥料・顔料・ゲルコートなど、多種多様な機能を備えた材料の製造販売を中心に事業を展開しています。

機械設備事業



容器製造用設備・充填巻締設備をはじめとする包装容器関連機械設備などの製造販売を中心に事業を展開しています。

その他事業



硬質合金・機械器具・農業用資材製品などの製造販売、石油製品などの販売、損害保険代理業および不動産管理業などの事業を展開しています。

新規事業



保有するコア技術を活用し、IT・エネルギー・ライフサイエンス・ナノテクノロジーなどの新たな分野へ事業領域を拡大しています。

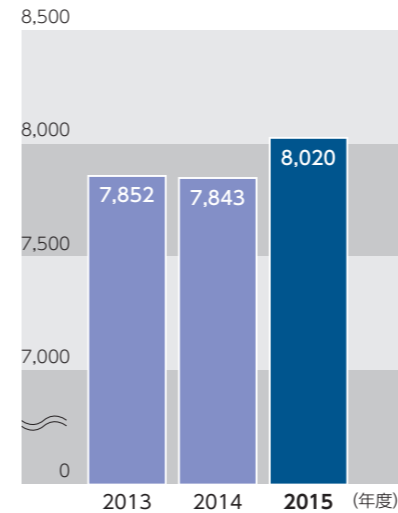
物流事業



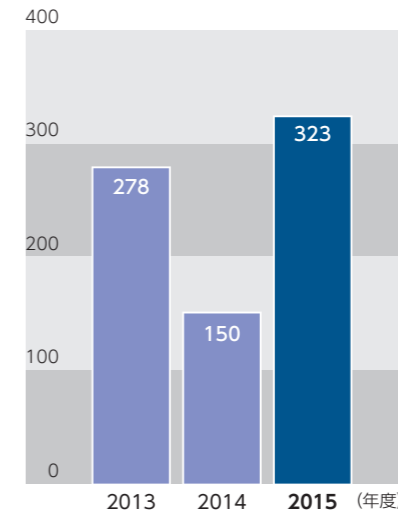
主にグループ会社向け貨物自動車運送業や倉庫業などの事業を展開しています。

データ(連結)

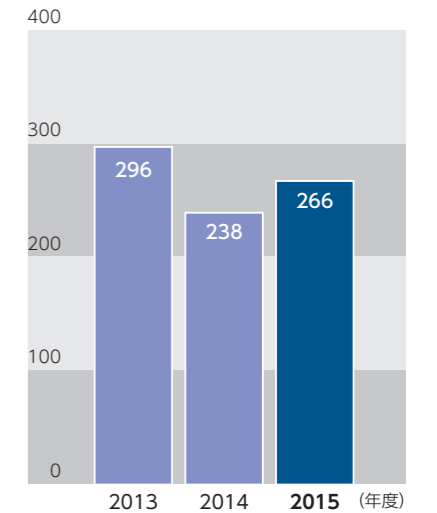
売上高(億円)



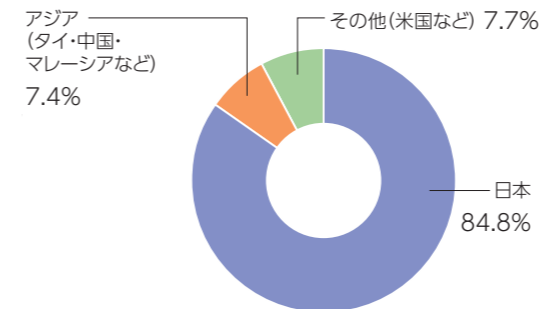
営業利益(億円)



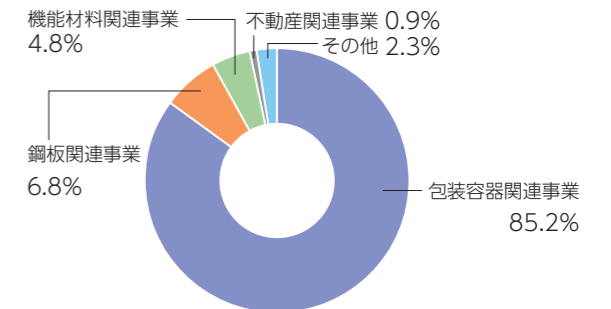
経常利益(億円)



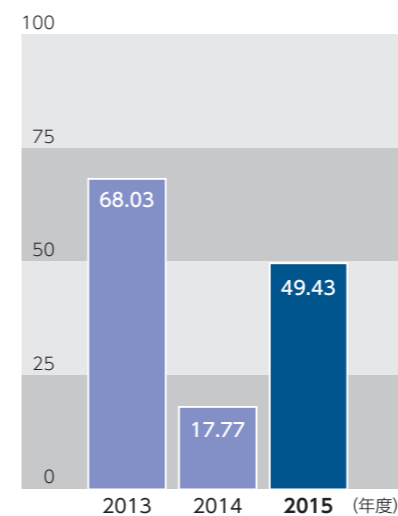
所在地別売上高構成比



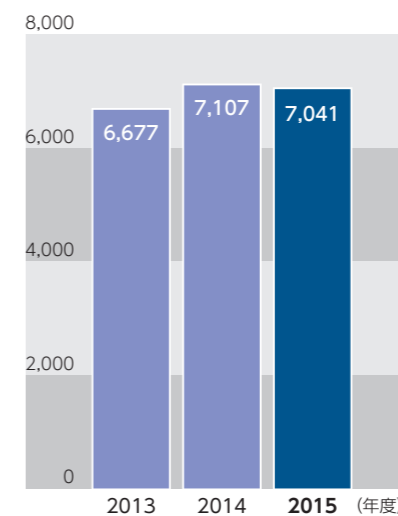
事業種別売上高構成比



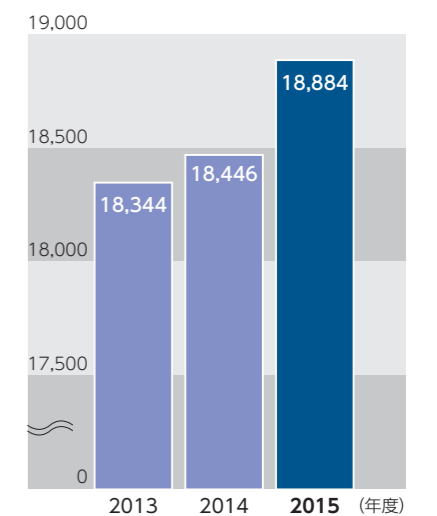
1株当たり当期純利益(円)



純資産(億円)



従業員数(名)



あなたの周りに東洋製罐グループ

東洋製罐グループの製品は、日常の身近なシーンで活躍しています。
安全・安心な品質と安定供給で皆さまの豊かな暮らしを支えています。



**磁気ディスク用
アルミ基板**
デスクトップPCやサー
バー、デジタル家電を中心
に使用されています。



コップ・グラス



**飲料用のびんとキャップ
コーヒーのコップ**



**洗剤のボトル
詰め替え用パウチ**



消臭剤の缶・充填



冷蔵庫扉材

**人造大理石
キッチンカウンター**



流動食のパウチ



**ハイブリッドカー用の
電池部品材**



**ダッシュボード向けの
着色剤**

自動車の内装などに使用し
ている樹脂を着色します。



**ジャム・牛乳・お酒のびん
とキャップ**



アイスやヨーグルトのコップ



**缶・びん・PETボトルと
キャップ**



**紙コップ
プラスチックコップ**



段ボール

これまでの100年とこれからの100年を大切に、
東洋製罐グループは、新たな成長の基盤を
築いてまいります。



Q 2016年3月期の実績とグループを取り巻く経営環境についてお聞かせください。

A 東洋製罐グループの2016年3月期の連結売上高は8,020億円(前年7,843億円)、経常利益は266億円(前年238億円)となりました。売上増の要因は国内の堅調な需要にあります。利益面はグループ全体のコスト削減効果と、原油価格下落にともなう原材料およびエネルギー価格の低下によるフォローが影響しております。

しかしながら、足元の環境を見ますと、事業の柱の一つであるPETボトル事業では、お客さまである飲料メーカーによる内製化が65%と進んでおり、非常に厳しい環境となっています。また、コンビニエンスストアのカウンターコーヒーの販売増加により、断熱紙コップの需要が急増し、缶コーヒーの市場が影響を受けるなど市場の変化も顕著です。

このような経営環境を踏まえ、国内包装容器の需要減少の中で、お互いの強みを活かし企業価値を最大化すべく、2016年4月、ホクカンホールディングス株式会社との経営統合に関する基本合意を締結しました。

Q 2016年度から第四次中期経営計画がスタートしましたが、その位置づけと基本方針について教えてください。

A 第四次中期経営計画(以下、本中計)では4つの戦略を基本方針として掲げています。いずれも市場の課題と当社グループの事業構造における課題に正面から取り組んで足場を築いていくことを要とし、グループ中長期成長ビジョンとして設定した「Growing 2022」の達成に向けた「成長の基盤固め」と位置づけています。

Q 4つの基本方針ですが、具体的にはどのように取り組まれますか？

A 以下のように取り組んでまいります。

● 持株会社体制を活かしたグループ戦略の立案と推進

グループ全体を俯瞰して、ヒト・モノ・カネの経営資源を効率よく配分、運用していく構造改革に取り組んでまいります。市場の変化に応じて人や設備の配置を見直し、会社間の人材が流動しやすい仕組みづくりに取り組んでまいります。

具体的には、昨年からクロスファンクショナルチーム(事業会社や部署、役職にとらわれず、必要な人材を集めて構成するチーム)によるプロジェクトを発足しています。すでに10のプロジェクトが活動しており、一例を挙げますと、「東洋製罐の紙コップ成型機を世界最速に」というミッションに対し、東洋製罐の設計者などを含めたグループ横断的なプロジェクトチームを結成し、すでに成果を挙げています。解決すべきテーマは尽きませんので、これからも多数のチームが活躍してくれることを期待しています。

またPETボトルを例にとると、現状ではボトルは東洋製罐、キャップは日本クロージャー、梱包用ダンボールは日本トリーカンパッケージと、1社のお客さまに対し、様々な部材を複数のグループ会社が供給しています。お客さまに対してワンストップで対応できるような仕組みが求められているかも知れません。この点について、お客さまの視点に立って考えてまいります。

事業構造改革・海外展開・新規事業の取り組みの推進力となる人材には、多様性が求められます。女性の活躍についてはすでに目標を掲げていますが、それ以外のダイバーシティマネジメントにも取り組んでまいります。

● 国内包装事業を中心とした既存事業構造改革のさらなる推進

当社グループの連結売上高の約85%を占める包装容器関連事業については、引き続き構造改革に取り組みます。近年の少子高齢化・人口減少にともない飲料、食品、生活用品などの国内市場は縮小しており、これにより包装容器関連事業も影響を受けています。このような環境の中、東洋製罐では、昨年、上場以来初となる雇用調整を実施しました。

本中計では、不採算事業の黒字化、あるいは業績の回復が不可能な場合は撤退などの判断も含めて、さらなる事業構造改革を推進し、収益力を強化します。

● 容器をコアとしたバリューチェーンにおける事業領域拡大の具体化

本中計では新規事業の拡大にも挑戦してまいります。当社グループが長年培ってきた容器領域の技術・知見を活かして、社会課題の解決に貢献できる領域への事業拡大を目指します。

具体的には、すでにライフサイエンスの分野では、食品・医

療業界のお客さまに高性能DNAチップをご提供しています。これは東洋鋼板の表面処理技術を活かした新しい検査技術で、カビや菌の検出を行います。

開発中の製品としては、東洋製罐の樹脂バッグ製造技術と殺菌技術を応用した、免疫細胞療法用の自動細胞培養システムにも取り組んでいます。また東洋ガラスの持つガラス技術を光学分野に応用した、屈折率分布型レンズ「シリカグリーン®」は、光ファイバに融着が可能な極細径レンズで、光通信や超小型センサなどの分野で活躍する次世代光学デバイスです。

私たちは、グループが持つ技術を活かして社会課題の解決に貢献し、今後成長が見込める新しい事業を拡大、推進してまいります。

● 今後の成長投資に備えた資産・財務の健全化の推進

本中計では、新たにROEについて2018年度に4.0%達成という目標を掲げました。将来のROE5.0%超の達成に向けて、本期間中に足場を確実に築くという意志のもと、既存事業の収益向上と不採算事業の整理などによって分子の値を大きくし、資本の効率的利用をはかることにより目標を達成します。これにより資産・財務の健全化をはかり、今後の成長に向けた基盤づくりを行います。

Q 2015年6月よりコーポレート・ガバナンスコードが適用されましたが、どのように対応なさっているのでしょうか？

A 持株会社体制のもとでグループの成長を実現していくため、ガバナンスの強化に取り組んでおり、2015年11月に「コーポレート・ガバナンス基本方針」を策定しました。

社外役員の体制については、2016年3月期は社外取締役3名、社外監査役3名でしたが、本年6月の株主総会において、社外取締役を1名増員し、4名としました。社外役員には月1回開催される取締役会において、独立した客観的な立場で発言をいただいております。また海外・国内の主要拠点の視察など、事業への理解を深めていただく機会を多く設けて、ますます閣下に議論いただけることを期待しています。

取締役会での議論は充実してきたと実感していますが、役員による取締役会の実効性評価を実施したところ、長期的な経営戦略についての議論が不足しているとの指摘がありましたので、今後はこの点についても議論を活発にしていきたい

と思います。

ガバナンス強化と並行して、今後の経営層の育成に向けた取り組み「次世代経営人材育成研修」も2013年度から開始しています。グループ全体の改革を牽引する人材の育成を目標としており、今後も継続してまいります。

Q 最後に今年4月に策定した「東洋製罐グループ経営思想」についてお聞かせください。

A 今回策定した「経営理念」「信条」「ビジョン」の3つをまとめて「経営思想」と呼びます。グループの経営、そして同時に従業員が働くうえでの拠りどころとなるものです。

これまで、東洋製罐の創業者・高崎達之助が打ち立てた「我社の根本方針」と「従業員服務精神」をグループ共通の精神としてまいりました。しかし、事業内容が多岐にわたる現在では、現状にマッチしない文言もあります。来年の創業100周年を前に、グループとして総合力を發揮し、次の100年を目指していくためには、今の私たちにふさわしい共通の指標が必要であると考えて、新しい経営思想を策定しました。

私としては、特に経営理念にある「持続可能な社会の実現を希求して」の文言に思い入れがあります。創業当時は、「持続可能な社会」という言葉はありませんでした。しかし、そもそも缶詰やびん詰技術は、余分にとれた魚や旬の野菜などの食糧保存を可能にする持続可能な社会を実現するためのツールでした。当社グループは、創業以来、安全・安心で環境にやさしい商品・システム・サービスの提供を通して社会の発展に貢献してきたと自負しています。

これまでの100年は、所得の増大、モノの豊かさが人々にとって大きな価値でしたが、これからは環境、安全、健康がより重視される社会に移行していくでしょう。限りある地球資源を保全し、生態系を持続させ、人類が幸福を実感できる地球を将来世代に継承することが大事です。

私たちのグループマークであるメビウスの輪は、循環し持続する社会を象徴しており、今回はそれを理念の核として明文化しました。

東洋製罐グループは、これからも、ステークホルダーの皆さまとともに人類の幸福という究極の目標に向かって歩んでまいります。今後とも、ご支援・ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

第四次中期経営計画

基本的な考え方 位置づけは「成長のための基盤固め」

基本方針

- 持株会社体制を活かしたグループ戦略の立案と推進
- 国内包装容器事業を中心とした既存事業構造改革のさらなる推進
- 容器をコアとしたバリューチェーンにおける事業領域拡大の具体化
- 今後の成長投資に備えた資産・財務の健全化の推進

基本戦略の概要

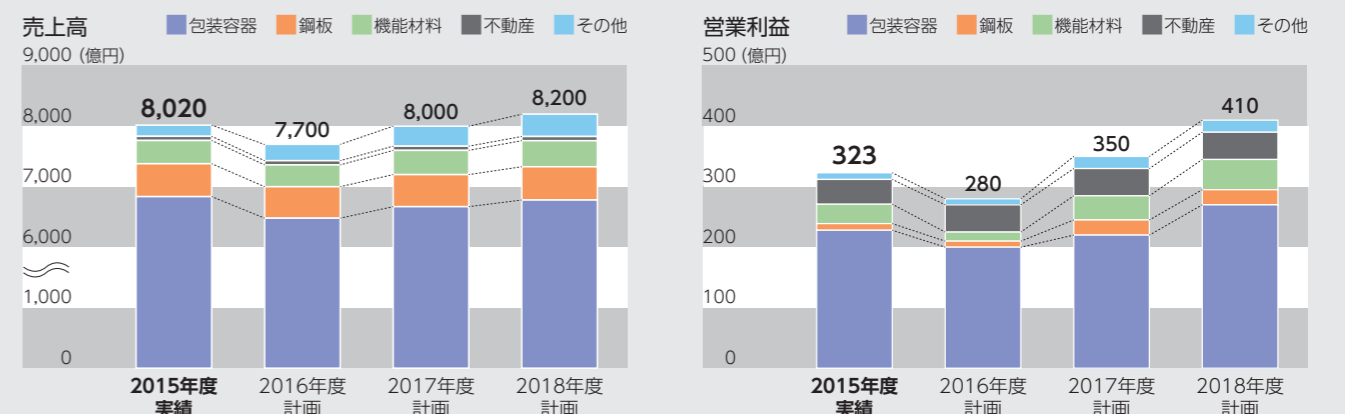
- CSR経営 「誠実で公正な事業活動を通して、人類の幸福繁栄に貢献しつづける」ことをグループCSR経営のビジョンに掲げ、すべてのステークホルダーに向き合いながら、引き続き「世界に信頼される東洋製罐グループブランド」の確立を目指す。
- グループ経営基盤 持株会社体制を活かしたグループ経営における戦略的な事業意思決定およびグループ連携の推進を執行するとともに、今後の成長投資に備えて資産・財務の健全化を進める。
- 国内既存事業 常に新しい価値を創造していくことにより顧客支持の獲得に注力するとともに、グループ内生産体制の合理化・省力化推進と、外部との業務提携等を通じた収益改善をさらに推し進め、持続性のある収益体質の確立を目指す。
- 海外事業 近年立ち上げた海外子会社の収益安定化を図るとともに、事業別・地域別戦略に基づいた適切な海外投資判断を企画・実行する。
- 成長戦略 設備製造技術と容器生産技術を融合した設備エンジニアリング事業など、当社グループの保有する技術を活用した容器周辺への事業領域拡大を推進するほか、将来に向けて研究開発を進めている、「ライフサイエンス・医療」、「電気電子・情報通信・エネルギー」などの分野における新規事業の継続的な育成に取り組む。

定量目標

	2015年度実績	2018年度目標	2015年度比
売上高	8,020億円	8,200億円	(+2%以上)
営業利益	323億円	410億円	(+80億円以上)
営業利益率	4.0%	5.0%	(+1ポイント以上)
ROE	1.6%	4.0%	(+2ポイント以上)
株主還元	(配当性向) 28.3%	(配当性向) 20%以上基準	

※ 本中期経営計画には、ホクカンホールディングス(株)との経営統合を織り込んでおりません。当局の承認が得られ、経営統合の最終契約が成立した際には、統合契約の内容を踏まえ、速やかに計画の見直しを行います。

セグメント別収益計画



東洋製罐グループのCSR経営

東洋製罐グループは、来年創業100周年を迎えるのを機に「東洋製罐グループの経営思想」を制定しました。この経営思想をグループの共通指標として総合力を発揮し、次の100年を目指します。

東洋製罐グループの経営思想

Management Philosophy of Toyo Seikan Group

経営理念

常に新しい価値を創造し、持続可能な社会の実現を希求して、人類の幸福に貢献します。

<信条>

- 品格を重んじ、あらゆる事に日々公明正大に努めます。
- 一人ひとりの力を最大限に発揮し、自己の成長と共に社会の繁栄に努めます。

<ビジョン>

世界中の人に必要とされる斬新で革新的な技術と商品を提供するグループを目指します。

東洋製罐の根本方針

1933年(昭和8年)、創業者高崎達之助は「東洋製罐の使命」という小冊子の中で、創業の理念を根本方針として明文化し、株主、従業員、業界関係者に配布しました。以来、東洋製罐グループは、この根本方針のもとに私たちの使命を果たしてまいりました。

東洋製罐グループのCSRの原点がここにあります。

- 一、 我々の目的は人類を幸福ならしむる結果を齎す所になければならぬ。
- 二、 事業は営利が目的でなく利益は結果であり目的でない。
- 三、 自己の受持により各自が奉仕の精神を尽し此の精神を団体的に発揮する事に努め、自己の繁栄をねがうと同様に関係業者の繁栄に努力しなければならぬ。

グループCSR基本方針

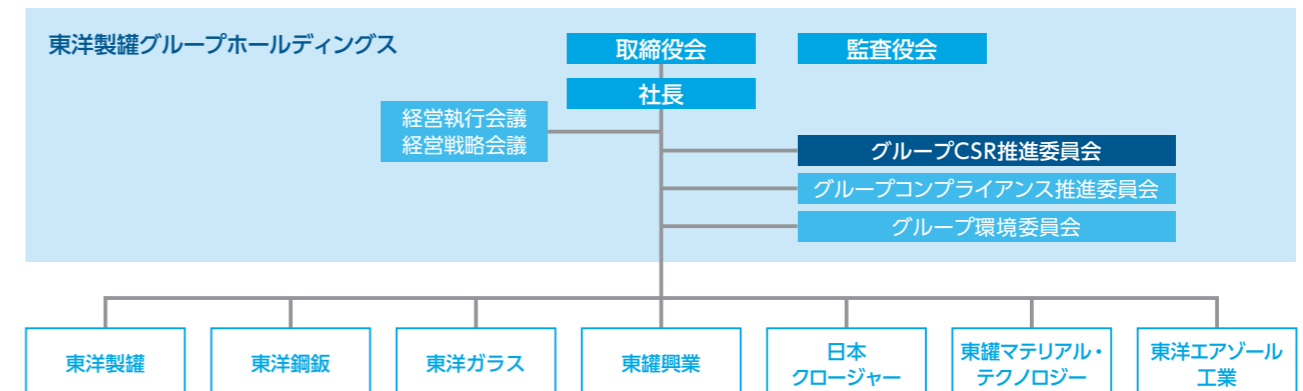
東洋製罐グループのCSRとは、「誠実で公正な事業活動を通して、人類の幸福繁栄に貢献しつづけること」です。東洋製罐グループで働く一人ひとりが、CSR精神を理解し、全てのステークホルダーに対応します。

全てのステークホルダー	全ての人の基本的な人権と多様性を尊重し、誠実に対話し、行動します。
お客さま	お客さまの信頼に応える安全・安心な製品・システム・サービスを提供します。
お取引先	常に高い倫理観を持って公平・公正・透明な事業活動を行います。
株主・投資家	企業価値の向上に努め、情報の適正な管理と開示を行います。
従業員	安全かつ衛生的で元気あふれる職場をつくります。
地域社会	地域社会との共生を目指して、地域での交流を大切にします。
地球環境	地球環境の保全と質的改善に、積極的に取り組みます。

グループCSR推進体制

東洋製罐グループのCSR経営を推進するために、グループCSR推進委員会を設置しています。

同委員会は、東洋製罐グループホールディングス社長を委員長とし、同社の役員および各事業会社社長を委員として構成します。



お客さまとのかかわり

お客さまの信頼に応える安全・安心な製品・システム・サービスを提供します。

東洋製罐グループは、長年にわたり蓄積した経験・技術・ノウハウを活用し、お客さまや社会のニーズに応える製品・システム・サービスの開発、提供に努めています。

品質保証体制

東洋製罐グループの品質保証体制は、グループ各社の事業活動において管理、運用しています。創業当時からあるべき姿として掲げてきた、「品質優良」「価格低廉」「迅速供給」の精神で、お客さまの信頼に応えるため、事業会社各社は、開発・調達・製造・販売・サービス全てのプロセスにおいて、常に時代に合った品質の確保・向上に取り組んでいます。



事業会社の品質マネジメント組織

東洋製罐グループの事業会社各社では、品質マネジメント組織を設置し、品質管理のレベル向上に取り組んでいます。

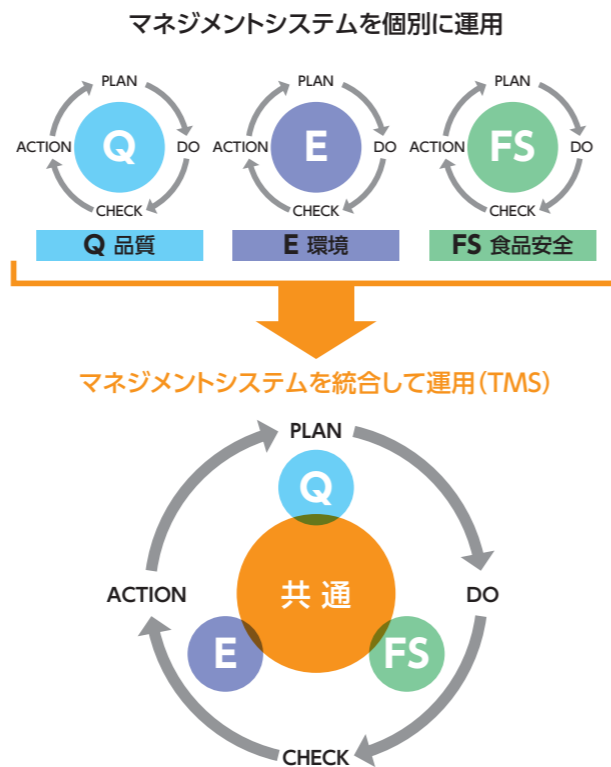
会社名	組織
東洋製罐	中央統合マネジメントシステム委員会
東洋鋼板	品質管理委員会
東洋ガラス	統合マネジメントシステム委員会
東罐興業	中央品質委員会
日本クロージャー	品質保証部

マネジメントシステムの構築

東洋製罐グループの事業会社各社では、品質マネジメントシステム (ISO9001) を構築し、品質の確保、向上に取り組んでいます。また、食品向け容器の製造販売を行う各社では、より安全・安心な製品の提供、フードチェーン全体におけるお客さま満足向上に向け、食品安全マネジメントシステム (FSSC22000) を順次構築しています。

事業会社の取り組み

品質マネジメントシステム (ISO9001)、環境マネジメントシステム (ISO14001)、食品安全マネジメントシステム (FSSC22000) について、東洋製罐では2013年7月、東洋ガラスでは2015年1月に複数サイト運用で、複合審査での認証を取得しました。マネジメントシステムの統合により、重複業務を省き、個別最適から全体最適へと視野を広げ、マネジメントシステムと事業活動とが融合した「活かしたシステム」で、お客さまに信頼されるものづくりを推進しています。



技術開発の取り組み

東洋製罐グループでは、お客さまのさらなる満足と信頼を得るため、包装・容器市場の多様化するニーズに応える高付加価値の製品・技術・システム・サービスの研究・開発に努めています。さらに、長年にわたり蓄積した技術と先端技術を活用して、新たな市場の創造と新規事業の創出に取り組んでいます。

新規事業への取り組み

東洋製罐グループは、グループ各社が有する包装・容器分野のコア技術やその周辺技術、さらにはそれらを統合したソリューション力を基本に、各分野での最先端の

技術開発体制

東洋製罐グループでは、基礎的な研究開発を担う総合研究所を含む東洋製罐グループホールディングスの開発機能系各部門を中心に、東洋製罐テクニカル本部・東洋鋼板技術研究所・日本クロージャー開発本部・東罐興業技術開発本部をはじめとする各事業会社の開発部門が連携しながら技術開発を行っています。

事業展開を推進している新規事業

CANACCS® (高効率自動細胞培養システム)

がんの再発・進行の防止が期待できる活性化自己リンパ球療法への適応を主眼に開発している浮遊系細胞の自動細胞培養システムです。自動培養装置の開発は、現状の手培養に対して、高効率・高品質培養を可能にする装置開発を継続的に推進し、1ライン1製剤の考え方を踏襲したタイプと、より汎用性を追求したタイプの2機種で進めています。培養関連容器の開発は、自動培養装置に装着するバッグキットと、開発の進捗にともなって入手した顧客ニーズへの対応、東洋製罐グループのプラスチックを中心とした容器開発・製造の知見を活かした、各種ハイパリアバッグや周辺理化学容器の開発および上市を進めています。



GenoGate® (DNAチップでの食品衛生検査)

食の「安全・安心」を支えて100年。長年培った食品衛生管理技術で、人々の快適で豊かな生活を支えます。「GenoGate®」は、新開発の高性能DNAチップと、微生物制御技術を活用したまったく新しいDNA微生物検査システムです。食品工場などの施設において、人体および食品に悪影響を及ぼす「食中毒菌」や「カビ」を一括して検出することができます。高精度で安定した検査結果をスピーディーにお届けすることができます。



シリカグリン® (屈折率分布型マイクロレンズ)

ガラス素材に関する知見とガラス組成設計技術を活かして開発した、径方向に屈折率分布を持たせた石英系マイクログリンレンズ (超小型屈折率分布型レンズ) です。光ファイバと同じ極細径・同素材であるため、接着剤を使用せずに光ファイバ先端への融着接続が可能で、コリメータ、コンデンサ、側方射出タイプなどを世界に向けて販売しています。また、次世代光通信用特殊ケーブル、超小型センサ/プローブへの応用を積極的に推進しています。



お客さまとのかかわり

各賞の説明

【環境賞】日立環境財団・日刊工業新聞社主催 環境保全に関する調査、研究、開発、実践活動で画期的な成果を挙げ、または成果が期待されるものを表彰。
 【リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰】リデュース・リユース・リサイクル推進協議会主催 発生抑制（リデュース）、再利用（リユース）、再資源化（リサイクル）に取り組み顕著な実績を挙げている個人・グループ・学校・事業所・地方公共団体などの表彰。
 【ワールドスター賞】WPO（World Packaging Organisation）主催 各国の優れたパッケージを世界に紹介することを目的として開催。世界の地域や国でのコンテストで受賞したものをから選ばれる。
 【アジアスター賞】アジア包装連盟主催 アジア各国の優れたパッケージを世界に紹介することを目的として開催。各国の国内コンテストにおいて入賞したパッケージだけがエントリー可能。
 【日本パッケージングコンテスト】公益社団法人日本包装技術協会主催 優れたパッケージとその技術を開発普及することを目的に開催される、包装分野における国内最大のコンテスト。
 【Pentawards（ペントアワード）】Pentawards主催 包装技術・パッケージデザインの普及を目的に開催される、最も権威ある国際パッケージデザインコンペティション。
 【日食優秀食品機械資材・素材賞】日本食糧新聞社主催 食品業界をバックアップする機械と資材・素材業界の力強い発展を期して、表彰と感謝を表するために制定された賞。

2015年度 東洋製罐グループの受賞製品

東洋製罐グループ各社が開発した容器包装製品は、2015年度も国内外から高い評価を受けました。環境負荷の低減、機能性・使いやすさの向上、さらにはデザイン性を追求した受賞製品が多くありました。今後も、グループシナジーを発揮し、お客さまのニーズに合った容器を提案してまいります。

持続可能な消費を実現した新・飲料充填方式（NSシステム）

NSシステムは省資源（資材の軽量化）・CO₂排出量の発生抑制・排出物（殺菌剤・洗浄水）抑制・品質向上を同時に満たすシステムであり環境負荷の低減に大きく貢献している点が評価されました。



- 第42回環境賞 優良賞
- 平成27年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞

東洋製罐（株式会社伊藤園殿と共同受賞）

衣玻璃®（きぬはり）

東洋ガラスのオリジナルデザインを一般びんに印刷し、1ケースから受注できる仕組みを導入したことで、高く評価されました。



- ワールドスター2016 コンテスト ワールドスター賞
- アジастアー2015 コンテスト アジастアー賞
- 日本パッケージングコンテスト 飲料包装部門賞

東洋ガラス

ハウス食品「特選本香り」シリーズ

内容物を絞り出しやすく、蓋材を剥がしやすく、またキャップを開閉しやすくなったことなどが評価されました。



- 日本パッケージングコンテスト アクセシブルデザイン包装賞

東洋製罐（ハウス食品グループ本社株式会社殿、凸版印刷株式会社殿と共同受賞）

Hot Magic Cup “Bowl”

積み重ね可能で、お湯を注ぐと側面のフォルムが変形する、ちょっと不思議なインスタント味噌汁のパッケージ。日本のスーパースポール「椀」をイメージしたデザインが評価されました。



Pouch with Decorative Holes

飾り穴で中身のイメージを強調するパッケージアイデア。チーズを表す「三角形」と「気泡」をモチーフに設計し、陳列用のフックとしての機能も併せ持ちます。



- 「Pentawards2015」でダブル受賞
- GOLD（金賞）… Hot Magic Cup “Bowl”
- BRONZE（銅賞）… Pouch with Decorative Holes

東洋製罐グループホールディングス

明治RTHアセップバッグスパウト

アセプティック充填対応のワンピースタイプ。保護カバーと折り取り部が一体となり、カバーごと開封可能な利便性に優れたスパウト。レトルト処理で製品化できなかった内容液も充填可能。



- 日本パッケージングコンテスト 食品包装部門賞

日本クロージャー（株式会社明治殿、オリヒロ株式会社殿と共同受賞）

190ml缶用吊り下げ什器

缶のデザインを最大限に見せることで、販売促進効果を向上させる什器です。



- 日本パッケージングコンテスト POP・店頭販売包装部門賞

日本トーカーパッケージ

IH専用使い切り蒸し器「ムッシャー」

手間のかかる蒸し調理を誰でもどこでも可能にする次世代型蒸し器。空焚き防止のヒューズ機能も備えます。高い加熱効率が最大の特徴。



- 第18回日食優秀食品機械資材・素材賞 資材部門

東洋製罐グループホールディングス

お取引先とのかかわり

常に高い倫理観を持って公平・公正・透明な事業活動を行います。

グループ調達体制

東洋製罐グループでは、「東洋製罐グループ資材購買基本方針」「東洋製罐グループ資材購買行動方針」を定め、事業会社各社は、方針に基づきそれぞれ基本ルールを定め、運用しています。

「法務の基礎知識」データベース活用

東洋製罐グループでは、グループ内のイントラネットに「法務の基礎知識」に関するデータベースを設置し、業務上よくある法務に関するQ&A、業務にかかわる法令情報、契約書のひな形集およびその解説などを掲載しています。特にお取引先との関係では、下請代金支払遅延等防止法（下請法）に関するQ&Aを掲載し、下請法の遵守をはかっています。また、2015年度は東洋製罐グループ各社に対して下請法に関する教育を実施しました。



データベースの画面

東洋製罐グループ 資材購買基本方針・行動方針

東洋製罐グループ資材購買基本方針に基づき、資材購買担当者は次の行動方針に則って行動します。

1. 購買取引先と公平な取引を行う

- 広く世界に目を向け、最適な購買取引先を開拓し、競争環境の維持に努める。
- 国の内外を問わず、取引先には公平に機会を提供する。
- 購買取引先と良きパートナーシップを築き、長期的観点より相互理解と信頼関係の維持向上に努める。

2. 遵法・倫理に基づき、公正な取引を行う

- 定められた方針や手順に従って、常に公正な取引を行う。
- 関連する法律及び契約に従って誠実な業務を遂行する。
- 購買取引を通じて知り得た取引先の機密情報を守秘する。
- 第三者の知的財産権などの権利を侵害する購買取引を行わない。
- 不当な目的や手段による利益の追求を行わない。

3. サステナブル（持続可能）な社会の実現に貢献する

- 「低炭素社会の実現」「生物多様性の保全」「資源の有効活用」「社会的課題への対応」を柱とし、グローバルな視点を持ち、それぞれの地域に根ざした購買活動を積極的に推進する。

YY-Lid カスピ海ヨーグルト

エッジ部を外側にカーリングすることで、開封時のケガを防止。人にやさしい形状のオーバーキャップです。



- 日本パッケージングコンテスト 食品包装部門賞

東罐興業（フジッコ株式会社殿と共同受賞）

すまいるカップ

外出先でも使いやすいベビーフードをコンセプトに設計された、握りやすい形状の軽量かつ廃棄が容易なプラスチックカップです。



- 日本パッケージングコンテスト 食品包装部門賞

東洋製罐、東罐興業（キユーピー株式会社殿と共同受賞）

株主・投資家とのかかわり

企業価値の向上に努め、情報の適正な管理と開示を行います。

情報開示に対する方針

東洋製罐グループホールディングスでは、IR基本方針を定め、会社情報の適時適切な開示を行うことにより、株主・投資家の皆さまの信頼を得ることに努めています。

IR基本方針

東洋製罐グループホールディングス株式会社は、株主・投資家および証券アナリストの皆様をはじめとする全てのステークホルダーへの適時適切な会社情報の開示が健全な証券市場の根幹をなすものであることを十分に認識するとともに、当社に対する信頼と適正な評価を得ることを目的として、株主・投資家の皆様との積極的なコミュニケーションを通じ、会社情報を適時、公平かつ正確に発信いたします。

IR活動の状況

財務状況・決算などに関する情報のリリースなどのほか、積極的に会社情報の開示を行っています。また、マスコミ・アナリスト向けの決算説明会の開催や国内外の機関投資家との個別IRミーティングなどを実施しており、東洋製罐グループの企業価値を理解していただくことに努めています。

2015年度の主な活動

対象	活動内容
マスコミアナリスト 国内機関投資家	<ul style="list-style-type: none"> 決算説明会(中間・期末) 個別IRミーティング
海外機関投資家	<ul style="list-style-type: none"> 個別IRミーティング 証券会社主催カンファレンス参加 インベスターズガイドの発行
株主	<ul style="list-style-type: none"> 報告書の発行(中間・期末)



株主還元方針

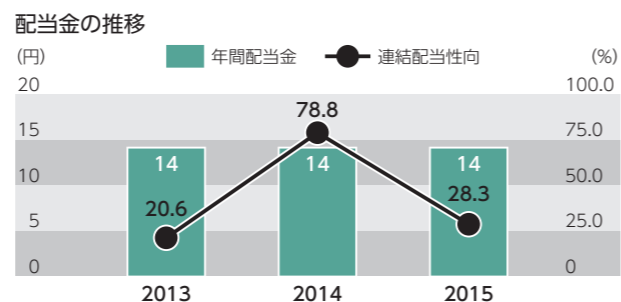
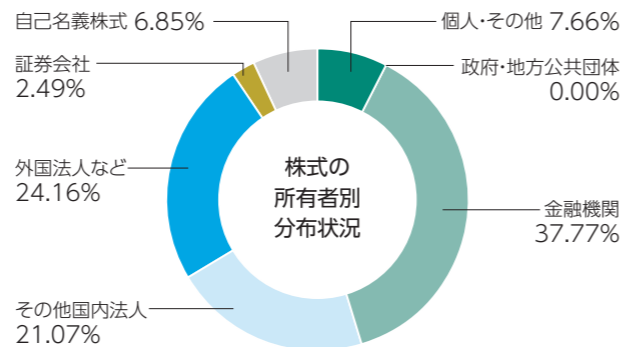
グループ全体の業績を向上させることにより、株主還元・利益配分を将来にわたり着実に増加させる努力を継続します。

株主還元・利益配分に関する方針は次の通りです。

- ① 配当については、安定的かつ継続的に行うことを基本とし、「連結配当性向20%以上」を基準とします。
- ② 内部留保については、中長期的な視点に立ち、財務の健全性を維持しつつ、将来の成長分野への投資に充当します。
- ③ 自己株式の取得については、財政状況や株式市況に応じて柔軟に実施します。

株式の状況 (2016年3月31日現在)

発行可能株式総数	450,000,000株
発行済株式総数	217,775,067株
単元株式数	100株
株主数	5,554名
上場取引所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード 5901)



従業員とのかかわり

安全かつ衛生的で元気あふれる職場をつくります。

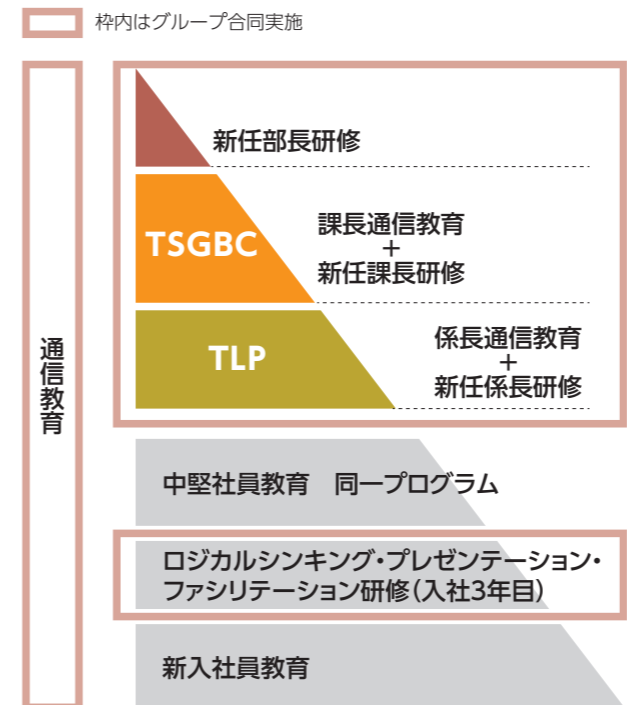
東洋製罐グループが、人類の幸福繁栄に貢献しつづけるための原動力は「人」です。私たちは常に従業員一人ひとりが、生き生きと誇りを持って働くことができる職場を目指しています。

人材についての考え方

東洋製罐グループは、会社の期待に応えられる人材を育てるために、能力開発の機会や実践の場を通して、従業員一人ひとりの成長を積極的に支援しています。

1. 変革意欲を持った社員に対して、積極的に活躍の機会を与え、成果に見合った評価・処遇を行います。失敗を恐れずに挑戦した姿勢・プロセスも評価します。
2. 積極的に教育研修、ローテーションの機会を与え、個人の成長が事業の成長へつながる仕組みをつくります。
3. 採用、教育、配属、異動、日常業務の各場面において、多様な人材に対してより公平に活躍の機会を与え、グループの組織を越えて社員同士が連携することを支援します。

グループ共通教育体制図



グループで連携した人材育成

東洋製罐グループは、教育プログラムの向上、グループ各社の連携強化のために、人材育成に関するグループ内交流を推進しています。グループ共通の集合教育として、次世代リーダー育成を目的とした選抜メンバーによる「TSGBC(東洋製罐グループビジネスカレッジ)」、MOT(技術と経営の融合)をベースとした技術系若手リーダー対象の「TLP(テクニカル・リーダーズ・プログラム)」、論理的な思考法を習得するための「ロジカルシンキング研修」、新任部長・新任課長・新任係長を対象とした「階層別研修」を実施しています。また、社員の自己啓発のサポートとして、通信教育の修了者には受講料を全額補助する制度を設けています。2015年度はグループ会社全体で延べ3,770件の申し込みがありました。

このようなグループで連携した人材育成を進めることで、個社を越えての一体感醸成、人的ネットワーク構築などを促し、「人」の基盤づくりに積極的に取り組んでいます。

TLP受講者コメント

私は「熱硬化性樹脂を主原料とした繊維強化プラスチックに関連する材料」の開発に携わっていますが、この業界は決して右肩上がりの状況にあるわけではありません。よって他社との厳しいシェア争奪戦となるわけですが、技術・研究開発部門にとって重要なミッションは他社との比較競争だけではなく、自社ならではの新しい商品やサービスを展開していくことだと改めて学びました。簡単なことではありませんが、幸い本プログラムで沢山の先輩との出会いがありました。また東洋製罐グループには多くの保有技術があることも再認識できました。このつながりと学んだことを今後の開発業務に活かし、少しでもグループの発展に寄与できればと思います。

東洋製罐マテリアル・テクノロジー株式会社
有機事業部 技術部

鳥飼 晋也



従業員とのかかわり

グローバル人材マネジメント

東洋製罐グループの海外拠点はタイ・中国を中心に41カ所あり、165名の海外赴任者が活躍しています。

海外事業のさらなる展開に向け、グローバルに活躍できる人材育成のため、従業員の語学学習のサポートや海外従業員の日本での研修などを行っています。

海外拠点数 41

海外赴任者数 165

国別拠点数・赴任者数

国名	タイ	中国	トルコ	マレーシア	アメリカ	ベトナム	その他
拠点数	8	15	2	4	3	1	8
赴任者数	65	37	24	15	3	1	20

【対象】東洋製罐／東洋銅板／東洋ガラス／東洋興業／日本クロージャー／東洋マテリアル・テクノロジー／東洋エアゾール工業／東洋製罐グループホールディングス

ダイバーシティマネジメント

東洋製罐グループが、企業競争力を高め、持続的に発展するためには、誰もが自己の能力を十分に発揮し、自分自身が成長するとともにグループの成長に貢献していく必要があります。一人ひとりが互いの個性と能力を認め合い、多様な価値観や発想、気付きを活かし、成果に結び付ける組織を目指してダイバーシティ（多様性）マネジメントを推進します。女性活躍推進はその第一歩です。

2015年度を通して実施したグループ従業員のヒアリング結果を参考に、2016年度より3カ年の行動計画を策定・届出・周知・公表しています。

2016-18年度グループ女性活躍推進活動方針

- 女性採用比率30%以上（当面、製造・現業系を除く）
- 積極的な情報公表姿勢を示す
- グループで活動を推進する

従業員の在籍状況（2016年3月31日現在）

従業員数 8,169

女性比率 12.2%

男性 7,173

女性 996

※ 製造・現業系を除く
女性比率 18.8%

【対象】東洋製罐／東洋銅板／東洋ガラス／東洋興業／日本クロージャー／東洋製罐グループホールディングス

安全・衛生活動

東洋製罐グループでは、全ての従業員が安全に安心して健康に働ける職場づくりを目指し、取り組んでいます。

安全活動では、各社の委員会組織を中心に、職場の安全パトロール、災害発生時再発防止対応、KY（危険予知）活動などを盛り込んだ活動計画に基づき、継続的かつ積極的な活動を展開しています。衛生活動では、年間活動計画に基づき、産業医、看護職との連携強化をはかりながら、生活習慣病や職業性疾患の予防、メンタルヘルス対策の推進などに取り組んでいます。

事業会社の取り組み

グローバル人材育成に向けた研修

東洋製罐では、新入社員の多くに、入社後の語学学校への通学を必修としています。また通学終了後には外国人講師と全編英語によるグループディスカッションとプレゼンテーションを実施し、通学の成果を披露する場としています。翌年以降には「異文化理解研修」を実施し、海外の文化・習慣を修得しています。自社の海外展開に関する理解を深めることで、先々海外で仕事をする際の具体的なイメージづくりやチャレンジ意欲の醸成につなげています。

TOPICS FAMILY DAY開催

日本クロージャーでは、2015年8月に家族を職場に招待するイベント「FAMILY DAY」を開催しました。当日は、「オフィス見学ツアー」「食堂での昼食体験」「キャップを使ったゲーム」などが企画され、開催された6つの拠点合わせて70家族、総勢190名の社員ご家族が当社を訪れました。イベントの最後には、子供たちから日頃の感謝の気持ちをメッセージカードに込めてプレゼント。普段見ることができない「お父さん」「お母さん」の顔を見ることができました。写真付きのこども社員証を首から下げた子供たちのかわいらしい姿に、各職場の上司や同僚社員も心なむひとときとなりました。



地域社会とのかかわり

地域社会との共生を目指して、地域での交流を大切にします。

東洋製罐グループでは、地域社会の一員として、地域の皆さまとの交流を行っています。各事業所それぞれの特色を活かして、身近なところからできる社会貢献活動を実施しています。

地域の訓練・イベントへの参加

【東洋製罐グループ】

2015年4月7日、東洋製罐グループ各社が入居する大崎フォレストビルの対面にある、品川区立日野学園の入学式終了後に、大崎警察署主催による、1年生を対象とした横断歩道の訓練が行われました。当日は、警視庁騎馬



横断歩道訓練の様子

隊も参加し、東洋製罐グループ社員も横断歩道訓練に協力して、新入生を見守りました。

【東洋製罐グループホールディングス】

2015年8月3日、使用を停止していた旧東洋製罐北嶺アパートにおいて、東京消防庁田園調布消防署による破壊訓練を含む消防活動訓練が実施されました。

消防署員からは「実際の建物を利用しての訓練であり、貴重な経験になりました」との感謝の言葉をいただきました。



バーナーチェーンソーによるドア破壊 ハシゴによる救出訓練

環境への取り組み

【東洋製罐（川崎工場）】

東洋製罐川崎工場は、川崎市港湾局と川崎市臨海部・浮島地区の埋め立て作業で発生する粉じん対策に、処理済み工業用水を無償提供する協定を締結しました。川崎市港湾局が委託した散水車により、東洋製罐川崎工場処理済み工業用水を採水した後に、浮島地区埋め立て作業地において散水が行われ、作業地一帯の粉じん飛散防止に役立っています。



川崎工場：採水作業

埋め立て作業地：散水作業

【東洋エアゾール工業（川越工場）】

東洋エアゾール工業川越工場では、2005年より、大気汚染抑制、健康増進を目的として、年に1回ないし2回ノーマイカーデーを実施しています。2015年度は9月4日に実施しました。通常は60～70台の車が利用する敷地内駐車場がノーマイカーデーでは4～5台程度になっています。



ノーマイカーデー

通常時

地域社会とのかかわり

工場見学・職場見学

【日本クロージャー（岡山工場）】

岡山県商工会の研修の一環として、商工会の各支部会長・副会長を務める40名の皆さまが岡山工場に来場されました。商工会は、地域の商工業発展や社会福祉増進のために活動しており、日本クロージャー岡山工場は地域社会への貢献という観点から今回の工場見学に協力しました。



岡山県商工会の皆さま

当日は見学通路およびモニターカメラの画像で工場内を見ていただきました。

【東罐興業（本社）】

東罐興業では、2015年12月に都立王子総合高校の職場訪問を受け入れました。王子総合高校では1年生から卒業後の進路、働くことへの意識付けを行うための総合学習を設けており、その一環としての職場訪問です。1年生15



都立王子総合高校の皆さま

名が当社を訪問し、職場見学や社員との質疑応答を通して、容器メーカーの仕事についての理解を深めていただきました。

清掃ボランティア参加

【東罐マテリアル・テクノロジー（本社）】

東罐マテリアル・テクノロジーは、2015年8月8日に行われた「なにわ淀川花火大会」の翌日清掃活動に参加しました。猛暑の中、休日の朝からの参加に対して事務局からお礼のメールをいただきました。



淀川での清掃活動の様子

イベント開催

【東洋鋼鋳（下松事業所）】

東洋鋼鋳では、2015年10月17日に、恒例となった下松事業所開放イベントを開催しました。

当日はご家族連れを中心とした約4,000名のご来場の皆さまに、オリジナル缶づくり体験や工場見学ツアーなど、様々な催しをお楽しみいただきました。



「TK WORKS フェスティバルinくだまつ」

児童養護施設訪問

【タイ Kanagata 社】

Kanagata (Thailand) Co.,Ltd. (タイ) では、年に1～2回、児童養護施設・老人ホームなどを訪問しています。2016年はバンコク近郊のRangsitにある児童養護施設を訪問し、社内で募った寄附金で購入した粉ミルク、ベビーパウダーなどの生活必需品をお渡ししました。施設では子供たちと一緒に遊んだり、何気ない話をしたりして、明るい笑顔の中でふれあいのひとときを過ごしました。



児童養護施設「Rangsit Baby Home」への訪問

地球環境とのかかわり

地球環境の保全と質的改善に、積極的に取り組みます。

エコアクションプラン2015

東洋製罐グループでは、グループ環境ビジョンの実現を目指し、具体的な環境目標と行動計画の中期目標であるエコアクションプランに基づき、グループ各社で目標達成に向けて取り組んでいます。

東洋製罐グループでは、2006年より、5年ごとの中期目標であるエコアクションプランを策定し、グループの環境経営を推進しています。

2011年度に策定したエコアクションプラン2015からは、対象拠点を国内グループ会社主要拠点のみから、国内グループ会社全拠点へと拡大し、グループ一体となって、さらに環境経営を推進しています。

エコアクションプラン2015活動総括

2015年度は中期目標の最終年となり、活動結果は下表の通りです。目標9項目中、3項目は達成しましたが、6項目が未達成となりました。これらの結果も踏まえ、次期中期目標を策定いたしました。

エコアクションプラン2015 2015年度の活動結果

環境ビジョン	具体的項目と環境目標	2015年度				
		目標	実績	評価		
事業活動にともなう環境負荷低減の推進	エネルギー消費量原単位の削減	8.5%削減	13%削減	省エネ活動の推進により、目標達成	★★★	
	CO ₂ 排出量の削減(1990年度比)	20%削減	12%削減	電力のCO ₂ 排出量係数が増加	★	
	物質投入量原単位の削減	3.3%削減	5.3%削減	軽量化などの取り組みにより、目標達成	★★★	
	廃棄物削減とゼロエミッションの推進	① 廃棄物物理量の削減	48%削減	21%削減	分別の徹底などをさらに推進するも未達成	★
		② ゼロエミッション拠点数の増加(再資源化率99%以上)	131拠点	133拠点	再資源化の推進により、拠点数増加	★★★
	化学物質管理	① PRTR法対象化学物質の排出・移動量原単位の削減	12%削減	12%増加	各種素材の生産量増加により、排出・移動量が増加	★
② トルエン・キシレン等有機溶剤の排出・移動量の削減		16%削減	6%削減	塗料・接着剤の水性化や無溶剤化を推進するも未達成	★	
調達・物流・販売のグリーン化の推進	物流工程でのCO ₂ 排出量原単位の削減	9%削減	7.6%削減	車両手配の効率化などを推進したが、目標未達成	★★	
資源循環の推進	マテリアルリサイクル率の向上	94%	92.5%	埋立量削減や分別徹底を推進するも、目標は未達成	★★	

評価指標：★★★ 目標を達成できた ★★ 目標に対してわずかに未達成 ★ 取り組みが不十分
 対象：国内グループ会社全拠点
 基準年：2009年度

地球環境とのかかわり

東洋製罐グループ環境ビジョン
エコアクションプラン2022

環境ビジョンおよび2050年に向けた長期目標

東洋製罐グループでは2050年までを見据え、グループ環境ビジョンを全面改定し、長期目標（2050年度）、中期目標（2022年度）を新たに立案いたしました。

環境ビジョン
東洋製罐グループは、固有技術の結集と世界の技術の活用により、私たちが提供する製品・サービス・システムのバリューチェーンにおいて、3つの側面から持続可能な社会の実現に貢献します。
<ul style="list-style-type: none"> ① CO₂排出量を大幅に削減する「低炭素社会」 ② 限りある資源を有効に活用する「資源循環社会」 ③ 自然からの恵みを受け続けることができる「自然共生社会」

2050年度長期目標
<ul style="list-style-type: none"> ① 2050年度までにCO₂排出量の半減を目指します。 ② 新規投入資源の使用量を最大限に削減し、再生材や再生可能材料への代替に努めます。 ③ 調達、開発、製造、販売、サービス活動においてライフサイクルを考慮し、製品およびサービスを通して、地球上の生物や人類が永続的に共生できる社会の実現に貢献します。

「環境ビジョン」「長期目標」の根拠

低炭素社会の実現

東洋製罐グループでは、グループ長期目標において、2013年度を基準年度として事業活動にともなうCO₂総排出量を「2050年度までに半減させる」目標を立てました。以下の考え方に沿って、社内施策および社会インフラの活用を通して、CO₂総排出量削減を進めます。

1) 原単位の削減

エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネルギー法）は、特定事業者に対して、エネルギー消費原単位を年平均1%以上低減することを努力目標としています。東洋製罐グループでは、これに準拠して2013年度から2050年度まで毎年1%原単位を低減させます。

2) 総量の削減

温暖化防止の観点から、地球上の温室効果ガス排出量を削減しなければなりません。東洋製罐グループは原単位削減に加え、省エネルギー設備への切り替え、生産体制効率化、新規技術開発などの施策により、CO₂総排出量削減を進めます。

3) 電力における成果取り込み

グループで使用している主要エネルギーである電力においては、今後CO₂を排出しない再生可能エネルギーや、よりCO₂排出の少ない電源の利用が計画されております。グループとしてもその動向を見ながら電源の選択などを通してその成果を取り込みます。

4) 海外も含めたグローバルでの活動

海外事業所に関しても国内と同様、省エネルギー施策を推進し、グローバルで目標達成に向けて活動を行います。

資源循環社会の実現

東洋製罐グループで主に使用している原材料資源の可採年数は、鉄とアルミが約100年、原油は約50年となっています。地球上の資源には限りがあり、日本はこれら多くの海外に依存しています。将来は新興国の需要拡大などにより、これら資源が逼迫していくと考えられ、新規資源の使用量を極力削減する製品づくりがますます重要となります。

日本では、従来からスチール、アルミ、ガラスなどで高いリサイクル率を達成し、アルミ缶やガラスびんの原材料として再生材を使用しています。プラスチック容器包装においては、再生材や植物由来等再生可能材料を使用することに対して、まだ技術的な課題が多く、将来の脱石油資源に向けて、技術開発が必要なのが現状です。

地球上の限られた資源を将来にわたって持続的に使用していくためにも、東洋製罐グループでは、技術開発を通して製品の軽量化、再生材の有効利用、再生可能材料の積極的利用に努めます。

自然共生社会の実現

東洋製罐グループでは、地球上の生物や人類が永続的に共生できる社会の実現に貢献するという観点に基づき、生物多様性が適切に保たれ、自然の循環に沿う形で社会経済活動を自然に調和したものとし、また様々な自然とのふれあいの場や機会を確保することにより、自然からの恵みを将来にわたって受け続けることができる「自然共生社会」の構築が必要だと考えています。

エコアクションプラン2022 中期目標・2016年度単年度目標一覧

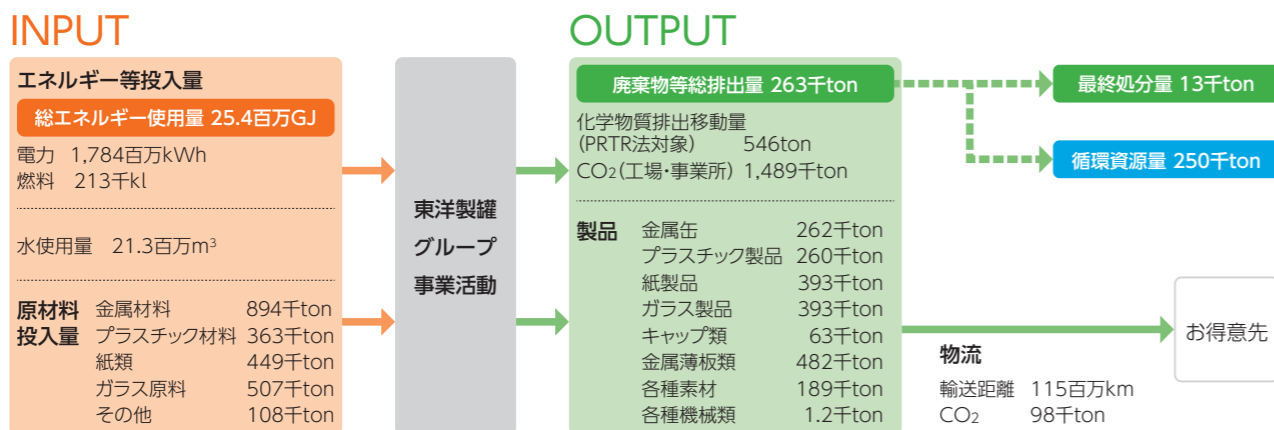
環境ビジョン	2050年度	2022年度	2016年度
	長期目標	中期目標	単年度目標
① CO ₂ 排出量を大幅に削減する「低炭素社会」	2050年度までにCO ₂ 排出量の半減を目指します。	● CO ₂ 排出量を14%削減	● CO ₂ 排出量を5%削減 ● エネルギー消費原単位を3%削減
② 限りある資源を有効に活用する「資源循環社会」	新規投入資源の使用量を最大限に削減し、再生材や再生可能材料への代替に努めます。	● 物質投入量原単位を3%削減 ● 購入資材のグリーン調達推進	● 物質投入量原単位を1%削減
③ 自然からの恵みを受け続けることができる「自然共生社会」	調達、開発、製造、販売、サービス活動においてライフサイクルを考慮し、製品およびサービスを通して、地球上の生物や人類が永続的に共生できる社会の実現に貢献します。	● 環境リスクの低減 ● 環境汚染物質の低減 ● 認証製品の購入を推進 ● 外部コミュニケーション活動の推進 ● 生物多様性の保全推進	● PRTR法対象化学物質の排出・移動量を5%削減

地球環境とのかかわり

事業活動にともなう環境負荷

東洋製罐グループは、金属、プラスチック、紙、ガラスを原材料として、缶、プラスチック容器、ガラスびん、紙容器、キャップなどの各種容器、および金属薄板、各種素材、機械類、エアゾール製品などを製造しています。その過程で、エネルギーを消費し、CO₂や廃棄物を排出しています。

全体の物質収支を把握することで、グループ全体の環境負荷の低減に取り組んでいます。



低炭素社会へ向けて

CO₂排出量削減の取り組み

2015年度の東洋製罐グループ国内事業所のCO₂排出量は、前年度に比べて3.3%の削減となりました。各事業所では、生産体制の再構築、計画的な高効率設備への更新、改善提案や他事業所の取り組みの水平展開など、地道な改善を積み重ね、さらなる削減に努めています。

また、1990年度比では12%削減となりましたが、電力のCO₂排出係数が増加した影響が大きく、2015年度までの中期目標20%削減は達成できませんでした。新たに設定したエコアクションプラン2022の達成に向けて、より一層の努力をしております。



資源循環社会へ向けて

廃棄物削減の取り組み

2015年度の有価物を含めた廃棄物等総排出量は、前年度に比べて3%減少しました。排出物の95%がリサイクルされていますが、残念ながら残りの13千tonが埋立処理(単純焼却を含む)されています。さらなる埋立量の削減のため、分別の徹底や、廃棄物処理業者と協力しながらリサイクル手法の検討を推進しています。また、グループ各拠点でのゼロエミッションの推進に取り組んでいます。2015年度は、全191拠点中、133拠点でゼロエミッション(再資源化率99%以上)を達成しました。



コーポレート・ガバナンス

誠実で公正な事業を行うため、コーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

コーポレート・ガバナンスの考え方

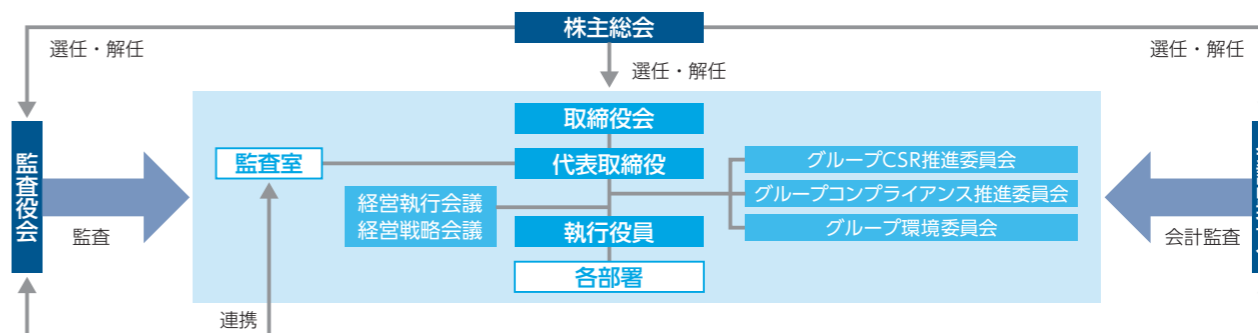
東洋製罐グループホールディングスは、グループの経営思想である経営理念・信条・ビジョンのもと、企業活動を通して社会に貢献しつつ、企業価値の向上をはかり、新たな発展と進化をつづけるために、コーポレート・ガバナンスを充実させていくことが経営上の重要課題であると位置づけ、これに継続的に取り組んでいます。

また、2015年6月1日に適用が開始されたコーポレートガバナンス・コードの内容を踏まえ、あるべきコーポレート・ガバナンスについて検討を重ね、同年11月に「コーポレート・ガバナンス基本方針」を策定し、開示しています。

企業統治の体制

取締役会は取締役9名で構成されており、そのうち独立性を有する社外取締役は4名であり、取締役会における社外取締役の人数は3分の1を超えています。取締役会は原則として月1回開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、経営に関する重要事項などを決定しています。また、取締役の経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を機動的に構築するために、取締役の任期は1年としています。監査役会は監査役5名で構成されており、そのうち独立性を有する社外監査役は3名です。監査役会は、原則として月1回および必要に応じて随時開催しています。社外取締役3名および社外監査役3名を東京証券取引所に対し、独立役員として届け出しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



これら社外取締役および社外監査役による、取締役会における積極的な意見の表明と、それにとりまなう活発な議論は取締役会の活性化につながっています。独立した客観的な立場にある社外取締役や社外監査役による経営陣のモニタリングと、株主による毎年の取締役選任議案の審議を通して、経営体制に対する監視機能を確保しています。

経営会議による戦略立案と業務執行

東洋製罐グループホールディングスでは、執行役員制度を導入することにより、経営の効率性・機動性を確保するとともに、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能の明確化をはかっています。経営の基本方針および諸施策を適切かつ迅速に確立し、経営活動を強力に推進するために、常勤取締役、機能統轄責任者、専務執行役員および常務執行役員により構成される「経営戦略会議」を月1回開催し、常勤取締役、機能統轄責任者、専務執行役員、主要なグループ会社社長により構成される「経営執行会議」を月2回開催しています。

内部監査

法令を遵守した企業活動の徹底をはかり、経営の効率性を高めるために、社長直轄の内部監査部門として監査室を設置しています。東洋製罐グループ全社を対象に、各社の内部管理体制の整備および運用状況を定期的に監査することで内部統制機能の向上をはかっています。

コンプライアンス

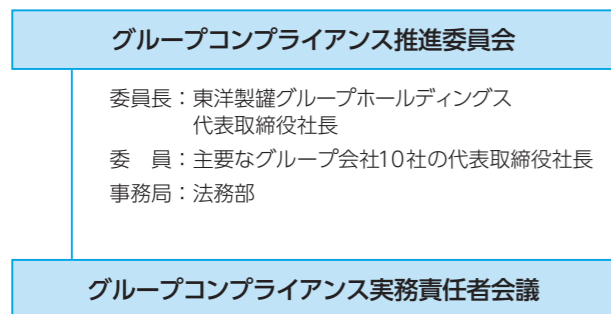
東洋製罐グループは、社会の信頼に応えるために、グループ全体でコンプライアンスの推進に積極的に取り組んでいます。

常に謙虚に、正しい行動を

従業員等が「常に謙虚に、正しい行動」を取るために、東洋製罐グループ企業行動憲章と各社にて企業行動規準を定めています。また、自身の行動を見直すためのセルフチェックカードを配付しています。

グループコンプライアンス推進体制

グループ全体のコンプライアンスを推進するため、以下の体制を構築しています。



相談窓口

東洋製罐グループでは、コンプライアンス違反行為に関する通報や相談に応じる窓口として、「企業倫理ホットライン」と「セクハラ・人間関係ホットライン」の社外相談窓口（電話・Webサイト）と社内相談窓口を設置しています。また、通報や相談に対する適正な処理の仕組みや相談者の保護について定めています。

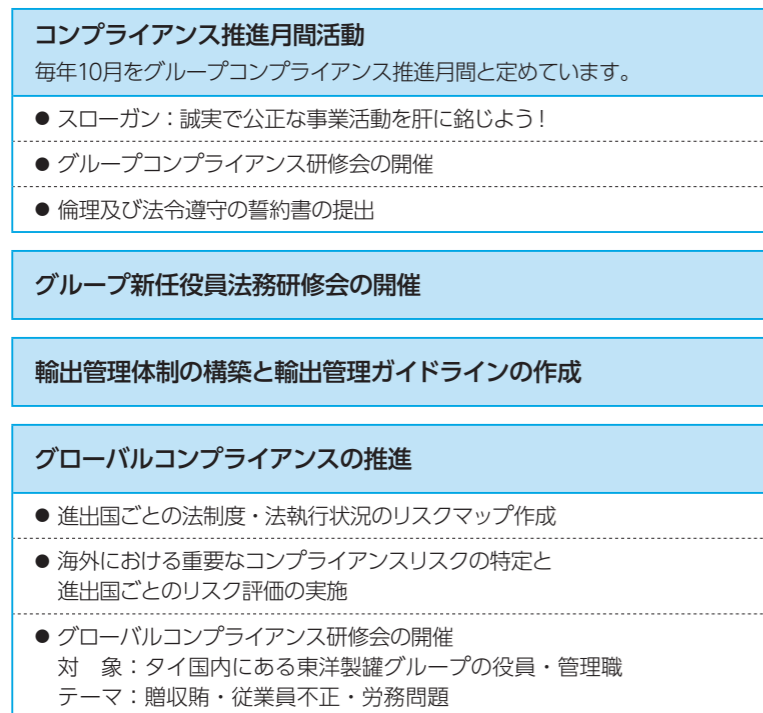
グローバルコンプライアンス研修会

2015年12月、タイにおいてグローバルコンプライアンス研修会を開催し、グループ会社9社の現地役員・管理職が参加しました。

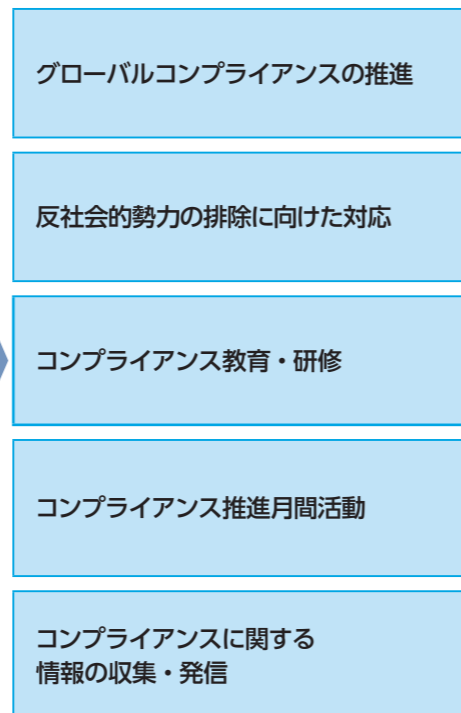


研修会の様子

2015年度の主な活動実績



2016年度の主な活動計画



リスクマネジメント

東洋製罐グループは、継続的な事業活動の実現、経営基盤の安定化のため、リスクマネジメントに取り組んでいます。

リスク管理体制

東洋製罐グループは、「東洋製罐グループ リスク管理および危機対策に関する基本方針」に基づきリスクマネジメントに取り組んでいます。

グループ全体のリスクマネジメントは、東洋製罐グループホールディングスの経営執行会議などを通して、状況を確認し、改善および予防措置を講じています。

グループ各社は、それぞれの推進体制のもとでリスク管理方針や基本計画の策定、会社全体のリスクマネジメント状況の取りまとめなどを行っています。

事業会社の組織と重要リスク

東洋製罐グループの事業会社各社では、リスクマネジメント組織を設置し、リスク発生の未然防止、顕在化したリスクからの事業活動の早期復旧に取り組んでいます。

業務執行の阻害要因となり得る重要リスクを認識し、リスクマネジメント組織を中心に対応しています。

会社名 組織	想定される重要リスク
東洋製罐 総合リスク対策委員会	コンプライアンス/品質/環境/債権回収/情報セキュリティ/自然災害・事故/カントリー
東洋鋼鋳 リスク管理委員会	コンプライアンス/生産・設備・品質/販売/安全・衛生・防災/環境/情報
東洋ガラス コンプライアンス推進委員会	コンプライアンス/自然災害・事故/環境/品質/情報セキュリティ/債権回収/カントリー
東洋興業 リスク・コンプライアンス委員会	コンプライアンス/品質/環境/債権回収/情報セキュリティ/自然災害・事故/カントリー
日本クロージャー リスク・コンプライアンス委員会	コンプライアンス/自然災害・事故による重大な損失/情報セキュリティ/品質/環境/カントリー

事業会社の取り組み

東洋鋼鋳グループのリスクマネジメント

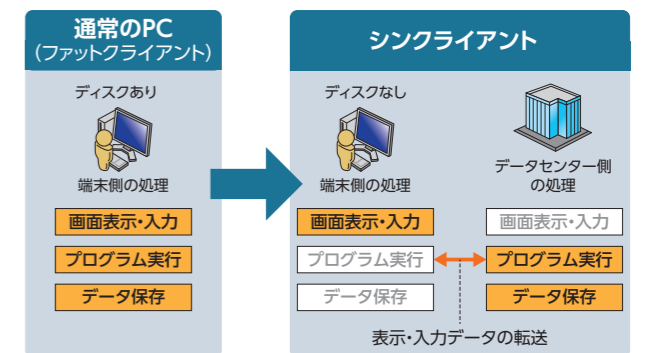
東洋鋼鋳グループでは、ステークホルダーの皆さまからのご信頼・ご期待に誠実に対応し有益な価値を提供しつづける「CSR経営」を実践するため、リスクマネジメントに取り組んでいます。

2015年度は、東洋鋼鋳各部署とグループ各社が各々、情報漏洩などのリスクをテーマとして、発生させる要因と対応状況に基づいてさらに対策を打つ必要のある箇所を明らかにし、リスクの発生防止につながる活動に取り組みました。

シンクライアント端末導入による情報セキュリティ対策

2014年度の東洋製罐と東洋製罐グループホールディングスのパソコン更新により、シンクライアントパソコンを導入しました。シンクライアントパソコンはこれまでのパソコンのようにディスクを積んでいないため、持ち出し時などに万一盗難や紛失が発生しても情報漏洩の心配がない安全性の高いパソコンです。

グループ会社にも順次導入を進めており、グループ全体のセキュリティレベル向上が期待されます。2016年度までにグループ14社7,500台での利用を予定しています。



東洋製罐グループ関係会社

97社(国内:46社 海外:51社)

2016年6月30日現在

● : 連結子会社

● 東洋製罐グループホールディングス株式会社

持株会社

● 東洋製罐株式会社

各種空缶・容器・充填設備の製造・販売

● 本州製罐株式会社

18リットル缶、缶詰用空缶、美術缶の製造・販売

● 日本ナショナル製罐株式会社

飲料用空缶の製造・販売

● 琉球製罐株式会社

缶詰用空缶、プラスチックボトルの製造・販売

● ペットリファインテクノロジーズ株式会社

PETボトルリサイクル事業

● 東洋製版株式会社

金属およびフィルム印刷版の製造

● 福岡パッキング株式会社

金属・ガラスおよびプラスチック容器用シーリング剤(密封剤)の製造・販売

● ティーエムパック株式会社

飲料用PETボトル製品の製造・販売

● 東洋製罐グループエンジニアリング株式会社

製缶機械、充填機械、包装機械、食品加工機械の製造販売および技術サービス等

● 東洋メビウス株式会社

貨物自動車運送業、倉庫業ほか

● 株式会社ジャパンボルドウォーター

宅配水用容器とサーバーの製造・販売

■ 株式会社T&Tエナテック

リチウムイオン二次電池を主とする電池用外装材の製造・販売

● Bangkok Can Manufacturing Co., Ltd. (タイ)

2ピース缶・溶接缶・アルミ蓋の製造・販売

● Next Can Innovation Co., Ltd. (タイ)

2ピース缶の製造・販売

● Toyo Seikan (Thailand) Co., Ltd. (タイ)

プラスチック製品の製造・販売、飲料用PETボトルの製造・販売および受託充填事業、技術支援センター、グループ会社へのアドミニ業務

● Kanagata (Thailand) Co., Ltd. (タイ)

プラスチック製品用金型の製造・販売

● Global Eco-can Stock (Thailand) Co., Ltd. (タイ)

容器用樹脂被覆アルミ材の製造・販売

● Toyo Mebius Logistics (Thailand) Co., Ltd. (タイ)

貨物自動車運送業

● 広州東罐商貿有限公司(中国)

缶、プラスチック容器の販売

● 東洋飲料(常熟)有限公司(中国)

飲料用PETボトルの製造・販売および受託充填事業

● 東罐斯多里機械(上海)有限公司(中国)

包装容器製造用機械器具、缶・びん詰め製造用機械器具、その他機械器具の製造・販売

● 上海斯多里機械有限公司(中国)

製缶・製蓋機械の販売・各種サービス

● Can Machinery Holdings, Inc. (アメリカ)

持株会社

● Stolle Holdings, Inc. (アメリカ)

持株会社

● Stolle Machinery Company, LLC (アメリカ)

製缶・製蓋機械の開発・製造・販売・各種サービス

● Stolle Europe Ltd. (イギリス)

製缶・製蓋機械の開発・販売・各種サービス

● Stolle EMS Group Limited (イギリス)

持株会社

● Stolle European Manufacturing Solutions Limited (イギリス)

製缶機械の販売・各種サービス

● Stolle EMS Precision Limited (イギリス)

製缶機械部品の販売・各種サービス

● Energo-Metal System Polska sp. z.o.o. (ポーランド)

製缶機械の販売・各種サービス

● Stolle Machinery do Brasil Industria e Comercio Equipamentos Ltda. (ブラジル)

製缶・製蓋機械の製造・販売・各種サービス

● Stolle Asia Pacific Co., Ltd (ベトナム)

製缶・製蓋機械の販売・各種サービス

■ Asia Packaging Industries (Vietnam) Co., Ltd. (ベトナム)

2ピース缶・アルミ蓋の製造・販売

■ Asia Packaging Industries (Vietnam) Trading Co., Ltd. (ベトナム)

2ピース缶・アルミ蓋の販売

● 東洋鋼板株式会社

ぶりき、薄板および各種表面処理鋼板並びに各種機能材料等の製造・販売

● 鋼板商事株式会社

鋼板類とその加工品の販売等

● 鋼板工業株式会社

帯鋼、結束機等機械器具、硬質合金等の製造・販売および磁気ディスク用アルミ基板の製造

● KYテクノロジー株式会社

建材製品および物流器材の製造・販売

● 株式会社富士テクニカ宮津

自動車用プレス金型および各種金型の製造・販売等

■ 東洋パックス株式会社

梱包資材の製造・販売、截断、検定、包装作業請負

■ 共同海運株式会社

内航運送業、貨物利用運送業、通関業、代理店業

■ 下松運輸株式会社

貨物自動車運送業、港湾運送業、通運業および倉庫業

■ 東洋パートナー株式会社

健保会館等福利厚生業務の請負

● TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN. BHD. (マレーシア)

磁気ディスク用アルミ基板の製造・販売

■ 宮津マレーシア社(マレーシア)

自動車用プレス金型および自動車用部品の製造・販売

■ 上海東洋鋼板商貿有限公司(中国)

鋼板関連商品、硬質材料、自動結束機等の販売および付帯サービスの提供

■ 湖南東洋利徳材料科技有限公司(中国)

鋼板、アルミ、銅およびステンレス等の基材に表面処理を施した製品の研究、開発、製造および販売並びにこれらに付帯する一切の業務

■ 江蘇東洋鋼板新材料科技有限公司(中国)

缶用ラミネート鋼板の製造

■ 富士瑞鶴技研(蕪湖)有限公司(中国)

自動車用プレス金型の設計

■ 烟台富士宮津商貿有限公司(中国)

自動車用プレス金型関連の営業活動

■ 烟台富士沃森技術有限公司(中国)

自動車用プレス金型の設計

■ 烟台三井富士汽車模具有限有限公司(中国)

自動車用プレス金型および自動車用部品の製造・販売

■ 韓国鋼板工業株式会社(韓国)

硬質合金、機械器具等の販売

■ Tosyali Toyo Steel CO. INC. (トルコ)

冷延鋼板および表面処理鋼板の製造・販売(表面処理鋼板製造工場の建設を推進中)

■ 富士テクニカ宮津アメリカ社(アメリカ)

自動車用プレス金型関連の営業活動

■ フジテクニカインドネシア社(インドネシア)

自動車用プレス金型および自動車用部品の製造・販売

● 東洋ガラス株式会社

ガラスびんの製造・販売

● 東洋佐々木ガラス株式会社

ガラス製ハウスウエア製品の製造・販売

● 東洋ガラス機械株式会社

ガラス・プラスチック容器用金型、機械の製造・販売

● 東洋ガラス物流株式会社

貨物利用運送業、各種構内作業請負

● 東北硅砂株式会社

硅砂の製造・販売

● 東硝株式会社

ガラス製品の販売

● 東罐興業株式会社

紙容器製品、樹脂容器製品の製造・販売

● 日本トーカンパッケージ株式会社

段ボール製品、紙器製品の製造・販売

● 東洋ユニコン株式会社

ダンブラ製品の製造・販売

● 東罐興産株式会社

農業用フィルムの製造・販売

● 東罐高山株式会社

紙容器製品、紙蓋製品の製造・販売

● 東罐ロジテック株式会社

貨物自動車運送業、倉庫業

● サンナップ株式会社

紙コップ・紙皿、紙ナプキンの販売

● 株式会社尚山堂

紙器・台紙、紙スプーンの製造・販売

■ 株式会社タケウチハイパック

段ボール製品・紙器製品の製造・販売

■ 千里運輸株式会社

貨物自動車運送業

■ 志田紙工株式会社

プラスチック製品の製造・販売

● 東罐(常熟)高科技容器有限公司(中国)

プラスチック製品の製造・販売

● TAIYO PLASTIC CORPORATION OF THE PHILIPPINES (フィリピン)

プラスチック製品の製造・販売

● T.K.G. CORPORATION (フィリピン)

土地賃貸業

■ 台湾東罐股份有限公司(台湾)

飲料用紙コップの製造・販売

● 日本クロージャー株式会社

金属キャップ・樹脂キャップの製造・販売

● 新三協物流株式会社

貨物自動車運送業

● Crown Seal Public Co., Ltd. (タイ)

メタルキャップ・プラスチックキャップ・王冠の製造・販売

● 日冠瓶蓋(常熟)有限公司(中国)

プラスチックキャップの製造・販売、メタルキャップの販売

● NCC Europe GmbH (ドイツ)

メタルキャップの販売

■ PT. Indonesia Caps and Closures (インドネシア)

プラスチックキャップの製造・販売

■ NCC Crowns Private Ltd. (インド)

メタルキャップの製造・販売

● 東罐マテリアル・テクノロジー株式会社

フリット製品、顔料およびゲルコート等の製造・販売

● 多瑪得(上海)精細化工有限公司(中国)

無機顔料(複合酸化物顔料)の製造・販売

● 多瑪得(廈門)精細化工有限公司(中国)

ほうろろ、タイル、陶磁器用のフリット、釉薬、人造大理石用ガラスファイラーの製造・販売

● 日龍発展有限公司(中国)

多瑪得(廈門)精細化工有限公司の持株会社

● TOMATEC America, Inc. (アメリカ)

無機顔料、フリット等の輸入・販売

● PT. TOMATEC INDONESIA (インドネシア)

フリットおよび顔料の製造・販売

● 東洋エアゾール工業株式会社

エアゾール製品・一般充填品の受託製造・販売

● Toyo Filling International Co., Ltd. (タイ)

エアゾール製品の受託製造・販売

■ Toyo & Deutsche Aerosol GmbH (ドイツ)

エアゾール製品の製造・販売

● 東罐商事株式会社

石油製品・PETボトルリサイクル商品の販売、製缶用鋼材の販売

● 東罐共栄株式会社

損害保険代理業、生命保険代理業、不動産賃貸管理業、宅地建物取引業、旅行業

■ 株式会社リンフォテック

自己リンパ球療法支援、同医薬品化